

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 9

(夏号： 3)

2002. 8. 1

A N C : News Letter

「アマクサギ」

大 和 村

2002. 7月 撮影

夏真っ盛りで暑い日が毎日続いています。

強い陽ざしで小さな草花たちはぐったりとしていますが、晴れわたった青空の下で緑の山々を背景にアマクサギの白い花は今は匂とばかりに咲き誇っています。紅色のゴンズイや黄色のリュウキュウトロロアオイの花も暑さを跳ね返すかのように鮮やかに咲いています。集落近くの木立からは、朝早くから日暮れ近くまでキョロローン、キョロローンと鳴くアカショウビンの声が聞こえてきます。声は聞こえるのですが姿を見ることはなかなかできません。2度ばかり木から木へ飛び移る姿を見ることができましたが（あっ）という間でした。徳之島へ自然ふれあい行事で行った時林道の樹上で止まっているアカショウビンを近くで見た時は感激でした。

また、いかにも夏だなあと思えるのがにぎやに鳴いているセミの声です。先日あまり大きな声がするので近寄って見ると、網戸に大小のセミが2匹止まっていました。

まばゆいばかりの太陽の光をあびながら海へ行くのが多くなる今が、最も奄美らしさを感じさせる時です。



アマクサギ



ゴンズイ



リュウキュウトロロアオイ

* 徳之島での「自然ふれあい行事」は台風が接近していて気がかりでしたが、影響もなく無事行うことができました。天城町、徳之島町、伊仙町の皆さんには大変お世話になりました。ご協力有り難うございました。

お知らせ

行事

☆奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会共催の「夏の行事」について

☆クラフト教室 「サンゴで絵を描こう！～オリジナルの作品を作ろう」

日 時：7月24日（水） 午後1：30～4：30

場 所：奄美野生生物保護センター

海岸に落ちているサンゴや貝のかけらで絵を描き、オリジナルの作品をつくります。

☆自然観察会 「山を探検して動物を探そう」

日 時：7月26日（金） 午後1：30～4：30

場 所：天城町（当部・三京）

天城町の森の中で生きている動物のことについて勉強してから当部や三京の山の中でアマミノクロウサギやリュウキュウイノシシの痕跡を探します。川の中のいきものについても調べましょう。

☆自然観察会 「川を調べよう」

日 時：7月27日（土） 午後1：30～4：30

場 所：徳之島町（亀徳川・大瀬川）

私たちがふだん飲んでいる川の水の検査をします。川の生きものがどんな水質の中で生活しているのか調べましょう。

☆企 画 展 「もっと知りたい鳥のこと！」

日 時：7月26（金）～ 8月31日（土）

場 所：伊仙町中央公民館 2階ホール

奄美群島に生息している野生生物の写真と鳥の羽根を展示しています。

☆自然観察会 「アジサシを観察しよう」

日 時：7月31日（水） 午後11：00～2：00

場 所：笠利町（土浜海岸・大瀬海岸）

夏鳥として奄美に渡ってくるアジサシの観察をしましょう。

☆クラフト教室 「海辺で草木染めをしよう」

日 時：8月7日（水）午後1：30～4：30

場 所：大和村国直海岸 工房「てるぼーず」

奄美の植物で草木染めの体験をしてみましょう。

☆自然観察会 「夏の夜にホタルを観察しよう」

日 時：8月14日（水）午後7：00～10：00

場 所：龍郷町長雲峠 奄美自然観察の森

夏の夜に輝くホタルや、夜の野鳥観察、星空観察をしましょう。

協議会活動報告



★クラフト教室 「サンゴで絵を描こう」

日 時: 7月24日(水) 午後1:30~16:30

場 所: 奄美野生生物保護センター(多目的会議室)

今年も夏休み期間の行事「奄美自然ふれあい行事」【クラフト教室の様子】を奄美野生生物保護センターと共催で始めました。夏休みに入ってすぐの7/24日(水)に、最初の行事のクラフト教室「サンゴで絵を描こう～オリジナル作品を作ろう」をセンターの多目的会議室で行ないました。近くの海辺で見かけるサンゴのかけらや砂、貝殻等でテーマを決めずに自由に作品を作ってもらおうと計画したものです。

最初は何を作ろうかと迷っていた子もいたようですが、センターの図鑑でいろいろ探しながら作品を作りはじめました。まず、黒いパネルに接着剤で絵を描いてその上にサンゴのかけらや砂、貝殻を張り付けて魚や鳥、虫、花などのオリジナル作品を完成させていきました。親子で話し合いながら作っていましたが、中には一人で手際よく作っている子もいました。

完成後は、一人ずつ出来上がった作品を見せながら紹介してもらいました。題名は「クワガタ、アカショウビン、花火、ヒマワリ、奄美の海」など、夏の季節らしい作品が多くありました。参加者の方からは「サンゴをパネルに張り付けるのが難しかった」「思ったより良い作品ができた」などの感想が聞かれました。身近にある素材で素敵な作品ができることを感じてもらえたようです。



★自然観察会 「山を探検して動物を探そう」

日 時:7月26日(金) 午後1:30~4:30

場 所:天城町 当部・三京

講 師:澤志泰正さん(やんばる野生生物保護センター)

今年の「自然ふれあい行事」は、はじめて奄美大島以外での行事として徳之島で開催しました。初日の7月26日は、天城町の当部の山と三京の秋利神川で観察会を行いました。

天城町公民館で川の魚や野鳥の名前、鳴き声などについて勉強をしてから、マイクロバスで当部の山へ出かけました。山へ着いたらバスを降りて山道を歩きながら山の生きものの観察を行いました。途中アマミノクロウサギの糞を2カ所で発見。また、樹上にいたキノボリトカゲを見つけるとみんな集まってきて、手に取って眺めている子供達もいました。このほかにもアマヤマシギの足跡やアマミコゲラが掘った樹の穴などを見つけました。

三京の秋利神川の河原では、澤志さんが川に入って魚を網ですくい始めると子供たちもつぎつぎと川の中へ入っていき魚を観察したりつかまえたりしていました。すくいあげた魚は水槽に入れておいて名前を澤志さんに教えてもらいました。川の中には、シマヨシノボリ、クロヨシノボリ、サワガニ、テナガエビ、イシマキガイ類のほか、もともと徳之島にはいなかったオイカワという魚がたくさんいました。名前を覚えてもらった後は川へ戻してあげました。参加された方から「普段見たことがない徳之島の動物や魚にふれることができ、貴重な体験ができました」といった感想が聞かれました。自然の大切さを見直す良い機会になったかもしれません。

〔 公民館での様子 〕



【当部での観察会】



【秋利神川での観察会】



★自然観察会「川を調べよう」

時 間：7月27日(土)午後1:30～4:30

場 所：徳之島町（大瀬川・亀徳川）

講 師：澤志泰正さん(やんばる野生生物保護センター)

【大瀬川での水質検査】

徳之島での2日目の27日は徳之島町の川で自然観察会を行いました。徳之島町の街の中を流れている大瀬川の水と、亀徳川の中流の水の水質検査をしました。初めに大瀬川へ出かけて、澤志さんから川の生きものについて説明をしていただいた後、水をくみあげて来て、4種類「pH・亜硝酸・COD（化学的酸素消費量）・リン酸」の水質検査をしました。川の水をそれぞれの容器にいれて決められた時間を待ちます（pH20秒、亜硝酸2分、COD4分、りん酸5分）。するとそれぞれ透明な水が変化していきました。水質検査と同時に川の中の生きものの観察も行いました。大瀬川には、テナガエビ（卵をお腹に持っている）や、イカカノコガイ（とげがある）、カワナゴ（ハゼの一種）などがいました。

亀徳川でも同じように4種類の水質検査を行いました。川の水の他にお店で販売されているミネラルウォーターと、ミネラルウォーターに醤油を少し混ぜたものの水質検査も行いました。亀徳川でも生きものの観察をしました。川には棘のないイシマキガイや、クロヨシノボリ、モズクカニ、ヌマエビなどがいました。

参加した子供たちから大瀬川は（くさい・飲みたくな感じ・草いっぱい）亀徳川は（きれい・涼しい）などの感想がきかれました。この項目だけでは結果にあまり違いはなく、もう少し細かい検査をすると分かるとのことでした。

【水質検査の結果】

名 前	p H	亜 硝 酸	C O D	リン酸
大 瀬 川	8.5	0.02	5 ppm	0.2
亀 徳 川	8	0.02 以下	5	0.2
ミネラルウォーター	7.0	0.02 以下	0	0.2
ミネラルウォーター＋醤油	5	0.02 以下	50	5



【亀徳川での水質検査】



★企画展「もっと知りたい！鳥のこと」

時 間：7月26日(金)～8月31日(土)

場 所：伊仙町 中央公民館（2階ホール）

夏休み期間中の8月末まで伊仙町の中央公民館で、企画展「もっと知りたい！鳥のこと」が開催されています。野鳥の羽根について解説したパネルや、にしたものや、鳥の羽根の実物が展示してあります。なにげなく見ている野鳥はどんな仕組みで空高く飛べるかを学べるよい機会になると思います。また、奄美の希少鳥のアカヒゲや、カエルの仲間、なかなか目撃されないアマミノクロウサギなどの野生生物の写真も展示してあります。お近くの方は是非、一度お越しください。

【 伊仙町 中央公民館 】



自然観察会「アジサシを観察しよう」

日 時：7月31日(水)午前11:00～午後2:00

場 所：笠利町 土浜海岸・大瀬海岸

講 師：高 美喜男・川口和範（奄美野鳥の会）

夏の訪れと同時に飛来してくるアジサシの仲間の観察会を、笠利町の大瀬海岸で行ないました。天気の良い暑い中での観察会でしたので、木陰にフィールドスコープ（望遠鏡）を置いて観察することにしました。野鳥が海岸でどのような行動をしているのか遠くからではわかりにくいのですが、フィールドスコープを覗いて見ると、餌を探していたり休憩している姿を観察することができました。野鳥の図鑑を参考にして足の色の違いなどを確認しながら名前を教えてくださいました。海岸にはエリグロアジサシやコアジサシのほかにクロサギ（白色型）、チュウサギ、くちばしの長いホウロクシギなどもいました。また、近くの林内からはセッカやクマゼミの鳴き声が聞こえていました。皆さんも多くの野鳥が飛来してくる大瀬海岸でゆっくりと時間をかけて観察してみたいかがでしょうか。

【大瀬海岸】

【土浜海岸】



地 域 紹 介

コ ー ナ ー

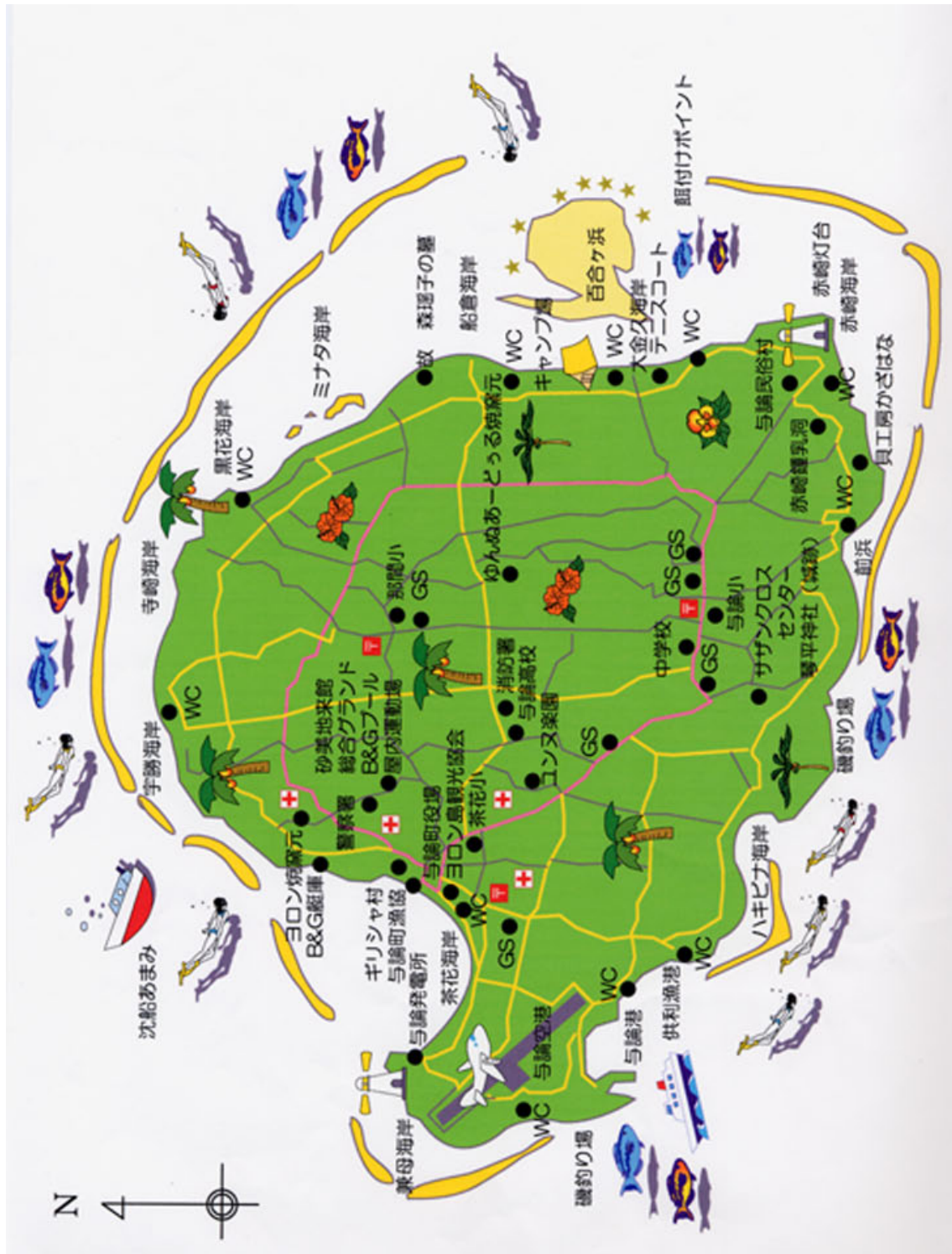
与 論 町

鹿児島から南へ563km、沖縄を指呼の間にのぞみ、東シナ海と太平洋にはさまれ、洋々と広がるエメラルドの海原に浮かびひとときわ輝くエンゼルフィッシュの形をした小さな島、ヨロン。1983年この島にパロディ国家が建国されました。グルリとサンゴ礁のリーフに囲まれた周囲22kmの小さな国に住民6000人、熱帯魚24億匹、動物6000頭が共生しています。年中咲き乱れる熱帯の色鮮やかな花々、ロマンと神秘に満ち溢れた南海のパラダイス、これを「ヨロンパナウル王国」といいます。（パナはヨロンの方言で「花」ウルは「サンゴ」の意味です。）この王国の象徴的なものが「百合が浜」です。島の東側に開く大金久海岸の沖合に、干潮時潮流の関係で自然に浮かび出る白い砂浜があり、その名は砂が「寄る」ことからつけられました。この砂の中には幸せを呼ぶといわれる「黒砂」が混ざっており人気を呼んでいます。平均気温22度、冬を知らない東洋のミコノス、そして、世界で一番美しいリゾートアイランド。外国人のご入国を今やおそしとまっています。



ヨロンで見られる主な野生生物				
植 物	ソテツ	アダン	ガジュマル	グアバ
	クワ	ヤブニッケイ	テンバイ	ハリツルマサキ
動 物	ズアカアオバト	カラスバト	イソヒヨドリ	メジロ
	リュウキュウツバメ	サシバ	イタチ	アカマタ(シマヘビ)

与 論 島



身近な生きもの情報

『オビトカゲモドキに出会った夜』

徳之島は奄美大島から飛行機で30分ほどの近さにある島です。今回初めてこの島を訪れた私は、ここでどんな生きものに出会えるだろう、と期待に胸を弾ませながら自然保護官の阿部さんや協議会の永野さんと夜の生きもの探しに出かけました。

今回特に見たいと思った生きものは、ここ徳之島にだけ生息するヤモリの仲間、オビトカゲモドキでした。オビトカゲモドキは道路上やそばの茂みにいることが多いので、車の窓から身を乗り出すようにして注意深く探して行きました。でも7月25日の夜は見つけてもすぐに逃げてしまい、ガッカリの連続でした。翌26日の夜も林道をゆっくり走って探すのですが、なかなか見つかりません。林道を引き返し、脇道に入ったその時、路上に小さな影を見つけました。オビトカゲモドキです。近づいても動きません。やっとじっくり観察する事ができました。赤紫の不思議な模様、しっぽを上げてゆっくりと歩くその姿にすっかり見入ってしまいました。見たことのない生きものに初めて出会う興奮と喜びを感じ、楽しい時間を過ごすことができました。

島ではオビトカゲモドキの他にも、たくさんの生きものに出会うことができ、大満足の生きもの探しでした。これらの生きもの情報は下のようなパネルにまとめ、現在センターで展示しています。ぜひご覧になって下さい。(センター 中村)

徳之島で出会った生きものたち

センターでは7月26日と27日に徳之島で自然ふれあい行事を開催しました。
ここでは徳之島で観察できた生きものの一部を紹介します。

リュウキュウコノハズク

この時期は巣立って間もないヒナが多く観察されます。1本の木に2~3羽のヒナが寄りそってとまり、親がエサを持ってきてくれるのを待っています。このヒナは観察している私たちを興味深げに見ていました。
(7月26日22時59分)

アマミヤマシギ

夜に林道に出てきたところを見つめました。エサのミミズを探しに出てきたようです。林道だけでなく、車通りの多い海沿いの県道でも観察されました。
(7月24日23時44分)

アカショウビン

(亜種リュウキュウアカショウビン)
木の枝にとまって寝ていたのですが、私たちが近づいたので起きてしまったようです。大きな目を開けてこちらを見えていますが、昼間と違って逃げようとしません。夜の闇の中で真っ赤なくちばしが鮮やかに見えました。
(7月25日22時50分)

他にも観察できた生きものたち
・リュウキュウイノシシ、アマミ/クロウサギ(黄)
・ヌアカオバト、カラスバト、リュウキュウサンショウクイ、アカヒゲ、リュウキュウサンコウチョウ、ホトトギス
・リュウキュウカシガエル、ガラスヒバエ、リュウキュウアオヘビ、ヘリクロヒメトカゲなど





ハナサキガエル

山道のアスファルト上で見つけました。手のひらほどもある大きなカエルでした。立派な足をもった名ジャンパーとして知られていますが、この時も近くと大きなジャンプで草むらへ逃げ込みました。
(7月26日23時12分)



オビトカゲモドキ

(徳之島の固有亜種)
「トカゲモドキ」というのはヤモリの仲間です。赤紫の模様や赤い目が、ちょっと毒々しく見えるのですが、とてもおとなしい、無害な生きものです。スローな動きをするかと思えば、突然全速力で草むらに逃げたりと、なかなか観察の難しい生きものでした。
(7月27日0時34分)



こちらは一度しっぽが切れてしまっており、再生しています。しっぽの模様が上の写真と違うのが分かりますか？
(7月27日0時45分)



キノボリトカゲ

天城町での自然観察会の際に、子供たちが見つけてくれました。このほかに周りの木にもたくさんキノボリトカゲがいて、それぞれ異なる色をしていることが観察できました。
(7月26日15時00分)

- 9 -

情報マップ

夏にみられる野生生物

※参考文献:琉球弧の山の花図鑑

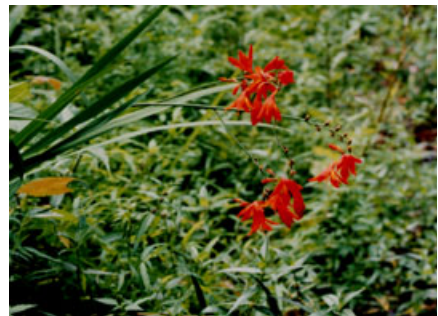
「ゴンズイ」 ミツバウツギ科

生息分布：本州（茨城県及び富山県以西）以南 低地～山地の湿潤で日当たりのよい林縁や伐採跡地などに生える落葉小高木。葉は対生、奇数羽状複葉で3～5対の小葉をつける。小葉は厚く、卵状披針形、長さ4～8cm、表面光沢があり、微鋸歯縁、中肋は両面に突出し、葉柄とともに紫紅色を帯びる。葉をもむと臭気がある。円錐花序は頂生し、よく分枝して径4～5mmの黄白色の花を多数つける。袋果は1つの花から1～3個生じ、肉質で赤色に熟してよく目立つ。種子は径約5mm、黒色で強い光沢がある。



「ヒメヒオウギズイセン」 アヤメ科 生息分布：日本各地

道端や人家周辺のやぶ地などに生える高さ60～100cmのアフリカ原産の多年生草本で、地下の褐色の繊維に包まれた球茎から走出枝を伸ばし、その先端に新しい球茎を作ってよく増える。葉は広線形～剣状で暗緑色、茎とほぼ同長かやや短く、多数相接して2列につく。茎の上部は2～3分枝し、無柄の花が穂状に10～20個つく。花は径2～4cm、鮮横紅色で喉部はやや淡色。果実は2個の苞葉に包まれ、先の方だけが見える。明治中期に渡来したが、今では日本各地に野生化している。



「ツルラン」 ラン科 生息分布：九州南部以南

山地の林内に入る多年生草本。根は太く径約5mmで白毛を密生する。葉は3～6個束生し、長さ20～50cm、幅8～15cm、花茎は高さ40～80cm、途中に鱗片葉を数個つけ、花序には白色の開出毛がある。和名は、白い花のなかにある赤い部分をタンチョウヅルの頭部の赤色部に見たてたことによる。本種に似たオナガエビネは甌島、屋久島、種子島以南に分布し、根は細く茎は2mm、葉は長さ15～35cm、花柄は細くて短く、花は紫紅色で花数も少ないので区別できる。



※参考文献：原色日本甲虫図鑑
：東洋のガラパゴス：沖縄昆虫野外観察図鑑

「オビトカゲモドキ」 ヤモリ科

生息分布：徳之島

形態：頭胴長7～8cm前後。

沖縄本島とその周辺の島々に生息するクロイワトカゲモドキの徳之島だけに住む亜種で、亜種間では背面の模様に違いが認められる。本種は背面に3本、頸部に1本紫色の模様がある。捕獲される個体の尾の模様や形に著しい差がある時は、尾が自切して、再生しているもの。

生態：石灰岩地域や山地の森林、石のごろごろした溪流などで見かける。山周部にある民家の下駄箱や物置の中でもしばしば見つかる。



「アマミノコギリクワガタ」 クワガタムシ科

生息分布：奄美大島

体長：♂29～79cm

色彩：♂♀ともに黒褐色

特徴：リュウキュウノコギリクワガタの奄美亜種で、他にもトカラ列島、徳之島、沖永良部島、沖縄諸島、久米島産の亜種（地方変異）が知られている。奄美産は中でも大きなオスが見つかることが多い。特徴的な「ハサミ」はカブトムシのような角ではなく、大アゴが発達したもの。内側に湾曲しているが、本土のノコギリクワガタにくらべるとやや丸みをおびている。



☆☆☆生きもの目撃情報をお寄せください☆☆☆

奄美自然体験活動推進協議会及び奄美野生生物保護センターでは、各地の野生生物の情報を集めています。目撃情報がありましたらぜひ奄美野生生物保護センターまでTELもしくはFAX等でお知らせください。

TEL 0997-55-8620

FAX 0997-55-8621

奄美野生生物保護センターの新しい職員紹介

◇◇ 自然保護専門員の中村友洋さん ◇◇

今年の6月よりこれまでの事務補佐員から、自然保護専門員(アクティングレ
ンジャー)としてセンターに勤務している中村です。この自然保護専門員は環
境省の野生生物保護センター業務支援事業の一環として、奄美以外にも沖縄県
のやんばると西表、長崎県の対馬、そして山形県にある猛禽類保護センターの
全国5カ所に配置されています。

メインとなる業務は、絶滅が心配されているオオトラツグミの保護増殖事業
に関する調査研究ですが、その他にも・センターに持ち込まれた生きものの収
容や野生復帰・研究者やNGOとの連携や協力・自然保護に関する普及啓発・地
域の自然に関する情報収集など、センターに関わるさまざまな業務を行います。
日々の調査や自然ふれあい行事など、いろいろな場面で地域の皆様と接する機
会があると思います。貴重な奄美群島の自然を守る気運を高めていけるように、
今後ともご協力をよろしくお願いします。

◇◇ 事務補佐員の元山沙弥香さん ◇◇

今年の7月から、中村友洋さんの後任として奄美野生生物保護センターの事
務補佐員になりました元山です。奄美で生まれ育った私ですが、奄美の自然の
ことをよく知りません。そのため慣れない仕事に戸惑ってばかりですが、自
然保護官の阿部さんや自然保護専門員の中村さん、協議会の永野さんに支えて
頂きながら頑張っています。

少しでも早く仕事を覚え、奄美の自然の素晴らしさを知りたいと思っています。
どうぞよろしくお願いします。

* 平成14年度協議会の総会及び活動計画についての報告

- 平成14年5月24日(金) [奄美会館2F会議室]で協議会の総会が開催さ
れました。総会で平成13年度の活動報告及び収支決算、及び14年度の活
動計画、収支予算の承認がなされました。
- 平成14年度の活動計画については、前年同様に奄美野生生物保護センター
と連携を図りながら活動を行っていきます。

編 集 後 記

7月は台風の接近で空の便などの欠航が相次いでいましたが、その後は
真夏らしく猛暑が続いており一雨欲しいところです。夏バテなどなさいま
せぬようお過ごしください。

